

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	学校企画課長 高橋 泰幸	電話番号	0852-22-5408
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	高等学校奨学事業		
目的	(1) 対象	高等学校等に在学する生徒	
	(2) 意図	奨学金を貸与することにより、修学の機会均等を図る。	
事業概要	公益財団法人島根県育英会が行う高等学校等奨学資金事業に補助金の交付を行う。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 適格者に対する貸与率	目標値		100.0	100.0	100.0	100.0	%
		取組目標値						
	式・定義 貸与者数/貸与することが適当な申請者数	実績値	100.0					
		達成率	-	-	-	-	-	%
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	160,691	39,522
うち一般財源 (千円)	160,691	39,522

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	(未選択)
---------------------	-------

5. 評価時点での現状 (客観的事実・データなどに基づいた現状)

平成27年度	貸与者数	新規採用人数
予約奨学生	260	169
予約奨学生緊急奨学生	数名	11
在学奨学生	150	117
在学奨学生緊急奨学生	数名	7

予約奨学生、在学奨学生ともに目標どおりの採用ができており、目的は達成されている。奨学金貸与により、生徒の修学機会確保に成果をあげている。累積滞納額増加への対応として、平成27年12月から返還金の回収が困難な事例を対象に債権回収委託(サービサー)を実施。委託債権のうち5%の回収があつ

6. 成果があつたこと (改善されたこと)

・債権回収(サービサー)委託により、回収が困難な滞納金の回収ができた。

7. まだ残っている課題 (現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」 過年度分の滞納額が増加傾向にあること。
②困っている状況が発生している「原因」 以下のことが考えられる。 ・返納金納付者が経済的に困窮していること。 ・返還金納付者への返還意識が低いこと。
③原因を解消するための「課題」 ・債権回収(サービサー)委託の拡大。 ・滞納者への返還への働きかけの徹底。

8. 今後の方向性 (課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

・債権回収(サービサー)委託の拡大。 ・経済的に困窮している貸与者への返還減免方策の検討。
--

9. 追加評価 (任意記載)

--

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。
・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があつたこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があつたこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。